

(1) 重点目標

「学んだことを生かす子の育成」

(2) 目指す子ども像

- ・学んだことを生かす子（校内研究の重点）
- ・他者と適切に関わる子
- ・物事をやり切る子

(3) 研究主題

根拠を基に考え、学んだことを生かす子の育成
～各教科における読解の工夫と、教科横断的な学習を通して～

(4) 校内研究で目指す子どもの姿

- ①本文（問題文）で問われていることを正確に読み取ることができる子
- ②自分の考えを整理し、根拠を明らかにして考え、発表することができる子
- ③身に付いた知識・技能を様々な場面で生かすことができる子

(5) 主題設定の理由

浅茅野の基本的な授業スタイルである、「浅茅野スタンダード」を活用し、全校で統一された授業の流れの中で学習を進めている。NRT学力検査や全国学力・学習状況調査、チャレンジテスト、Sサポートなどの分析から、本校児童は、概ね一定水準以上の学力は身に付いているが、①個人差が大きいこと、②本文や問題文を正確に読み取る力、③根拠を明らかにして、順序立てて説明する力④身につけた知識・技能を応用する力、の4点に課題があることがわかった。

研究1年目であった昨年度は、基礎基本の確実な定着とともに、読解力の向上、自分の考えに根拠をもち、順序立てて表現する力をつけるための研究をおこなった。チャレンジテストなどの結果から、読解力向上の取り組みが学力向上につながったことがわかった。

そこで今年度は、昨年度までの読解力向上の取り組みを継続しつつ、身につけた知識・技能などを様々な場面で教科横断的に生かす力を身につけ、更なる学力向上を目指すため、研究主題を上記のように設定した。

(6) 校内研究の内容

研究仮説の土台

・基礎基本の定着

基礎基本タイムや宿題・家庭学習での繰り返し学習や個々のニーズに合わせた学習を行う。

宿題と家庭学習の取り組み方を明確にし、個に応じた課題を提示し、取り組む。

家庭学習の中に読書活動を位置づけ、読書の習慣化を図る。

各単位時間の中に「振り返り」「習熟」の時間を確保する。

・「浅茅野スタンダード」の徹底

「浅茅野スタンダード」を意識し、学年が上がっても学びにギャップが生まれないように配慮する。

- 発表する場の設定

夏・冬休みの作品発表会や作文発表会など、多数に対して発表することを通して、発表の場に慣れ、自分の伝えたいことを的確に伝える力をつける。

- コミュニケーションスキルの獲得

「話し方、聞き方のポイント」を学年ごとに示し、コミュニケーションの場面で活用する。

- 実践を引き継ぎ、実践例を積み重ね、改善を図る。

研究仮説

- ① 導入において、文章や問題のキーワードを見つけて読んだり、声に出して読むことで、正確に読み取ることができるだろう。
- ② 課題追及において、正確な読み取りをもとに考えることで、根拠を明確にした考えをもち、他者に伝わりやすい発表ができるだろう。
- ③ 導入や終末において、今までの学習とのつながりや、今後の学習、他教科とのつながりを確認することにより、学んだことを生かすことができるだろう。

研究内容

- ① 「読解力の向上」を図る、読み取りの工夫
 - 本文や問題文を正確に捉えるための音読の工夫。
 - 文中の重要なキーワードを見逃さない読み方（要約）の工夫。
 - 主述の関係などを正確に捉えるための読解の工夫
- ② 「根拠を明らかにした考えをもち、発表する」ための展開の工夫。
 - 根拠を明らかにした発表方法の工夫（例示と定型化）
 - 根拠を問う「問い返し」の工夫。
- ③ 「教科横断的な視点」をもった導入・終末の工夫
 - 前時（前学年）までの学習と関連づけるための工夫。
 - つけたい力が明確になる課題設定の工夫。
 - どんな力が身に付いたか、振り返るためのまとめの工夫。
 - 身に付いた力を他教科で生かすための終末の工夫。

研究仮説の検証方法

各種検査（NRT、全国学力・学習状況調査、チャレンジテスト、Sサポート（Sトライ））の結果を分析し、仮説の検証を行う。

2 研究計画(3年計画)

Ⅰ 第1年次(令和3年度)→検証期	
○研究主題、仮説、研究計画の練り上げ ○仮説①、②に関する授業研究 ○指導内容・方法の工夫改善 ○指導技術向上のための研修 ○即応課題に対応する研修、実技研修	
Ⅱ 第2年次(令和4年度)→充実期	
○1年次の研究結果をもとにした仮説の見直し ○仮説③に関する授業研究 ○指導内容・方法の工夫改善 ○指導技術向上のための研修 ○即応課題に対応する研修、実技研修	
Ⅲ 第3年次(令和5年度)→発展期	
○2年次の研究結果をもとにした仮説の見直し ○指導内容・方法の工夫改善 ○基礎・基本の定着状況および、個々の課題の把握 ○指導技術向上のための研修 ○即応課題に対応する研修、実技研修 ○3年間の研究のまとめ ○次年度研究に向けた準備	

3 令和4年度の研修計画

① 5時間授業で放課後の時間を確保するもの

月	日	曜日	研修内容
4	6	水	今年度の研修及び校内研究について(職員会議内)
	14	木	タブレット活用研修(タブレットへのログインとクラスルームの作成等)
5	26	木	AED研修(予定)
6	23	木	特別支援教育に関する学習会① 管内研・学校教育指導訪問B(特設・公開授業)の準備・指導案検討①
8	18	木	校内研究の途中報告・交流会① 管内研・学校教育指導訪問B(特設・公開授業)の準備・指導案検討②
9	15	木	管内研・学校教育指導訪問B(特設・公開授業)の準備・指導案検討③
10	20	木	管内研・学校教育指導訪問B(特設・公開授業)の反省とまとめ
11	17	木	特別支援教育に関する学習会②
	24	木	校内研究の途中報告・交流会②
12	8	木	ここまでの校内研修のまとめと今後の方向性の検討
1	26	木	今年度の校内研究のまとめ・クロカン・モービル研修

② オンラインを活用して行う研修

時期	内容	詳細
① 4月28日(木) ② 8月16日(火) ③ 1月17日(火) ④ 3月2日(木)	学級経営案交流	Classroom にアップし、事前に目を通し、職員会議内で質問などを受け付ける。なお、特別支援学級については、職員会議内で扱う。
① 6月20日(月) ・21日(火)・22日(水) ② 11月14日(月) ・15日(火)・16日(水) ③ 2月13日(月) ・14日(火)・15日(水)	授業交流週間	期間内に各クラスの公開授業を行います。その感想や意見を Classroom にアップし、交流を行う。 なお、授業交流の際は、『 <u>宗谷管内授業改善に向けた5つのポイント</u> 』及び、 <u>校内研究の仮説①・②・③</u> をポイントに授業参観を行う。
8月17日(水)～ 9月2日(金)	学芸会の演目 アイデア募集	学芸会の演目、演出方法などを交流する。Classroom に随時入れていく。
いつでも	授業交流・相談	日頃の授業の動画、写真などを Classroom にアップし、授業交流や指導の悩みなどを交流、相談する。 ※月に1度は何かしらアップしましょう！
いつでも	児童の作品交流	児童が授業で作ったもので、掲示に向かないものなど(作文の発表など)を、Classroom にアップし、交流する。 ※Classroom を活用し、他校との交流も積極的に行いましょう！

4 校外研修

- (1) 研究大会・研修会の案内は速やかに回覧し、特に長期休業前を中心に参加希望を公募する。希望者は係に申し出る。
- (2) 研修旅費を有効に活用する。
- (3) 研究主題に関わる研修、学校・学級・授業作りに関わる研修については積極的な参加を望む。
- (4) 道研の講座への積極的参加を促す。
- (5) 各種研究会・研修会・長期休業中の校外研修も含め、資料や報告書をもって成果を還元交流する。

5 浅茅野スタンダード

浅茅野小学校での、基本的な学習の進め方です。これを参考に日頃の授業を展開してみてください。もちろん改善も行いますので、追加、修正は、研修日などで行っていきましょう。

全教科の共通事項

- ・問題は **問**、課題は **課** もしくは **か**、まとめは **ま** で表す。
- ・問題は、白。課題は **黄**(児童は **青** で書く)。まとめは **赤** で囲む。
 - ・導入で児童の生活に関わる事柄を利用し、必要感を持たせる。・文中の根拠となる部分に線を引く。
 - ・まとめには児童の言葉を使う。・音読(問題文含む)時間の確保と、目的の明確化。
- ・学習のきまりの徹底。・音読カード、週末読書、ブックトーク、読み聞かせなど読書の促進に取り組む。
 - ・発表名人・聞き名人の活用。・宿題や家庭学習で更なる定着を図る問題に取り組む。
 - ・既習事項との関連づけをする時間をつくる。・自分の考えを交流する時間を確保する。
- ・振り返り・習熟の時間を確保する。
- ・発表する場合には、その相手と場所と方法を明確にする。

各教科における浅茅野スタンダード

算数

- ・問題→課題→まとめ→習熟の流れで授業を展開する。

理科

- ・各単元の1時間目で、単元全体の見通しをもたせる。
- ・疑問→予想→仮説→実験(観察)→結果→結論→新たな疑問の流れで単元を展開していく。

特別活動

- ・キャリアパスポートに取り組み、自分の成長を節目ごとに振り返り、次の目標に生かす。
- ・運動会や学芸会、学級などで認め合い活動を行い、自己有用感を高める。

総合的な学習の時間

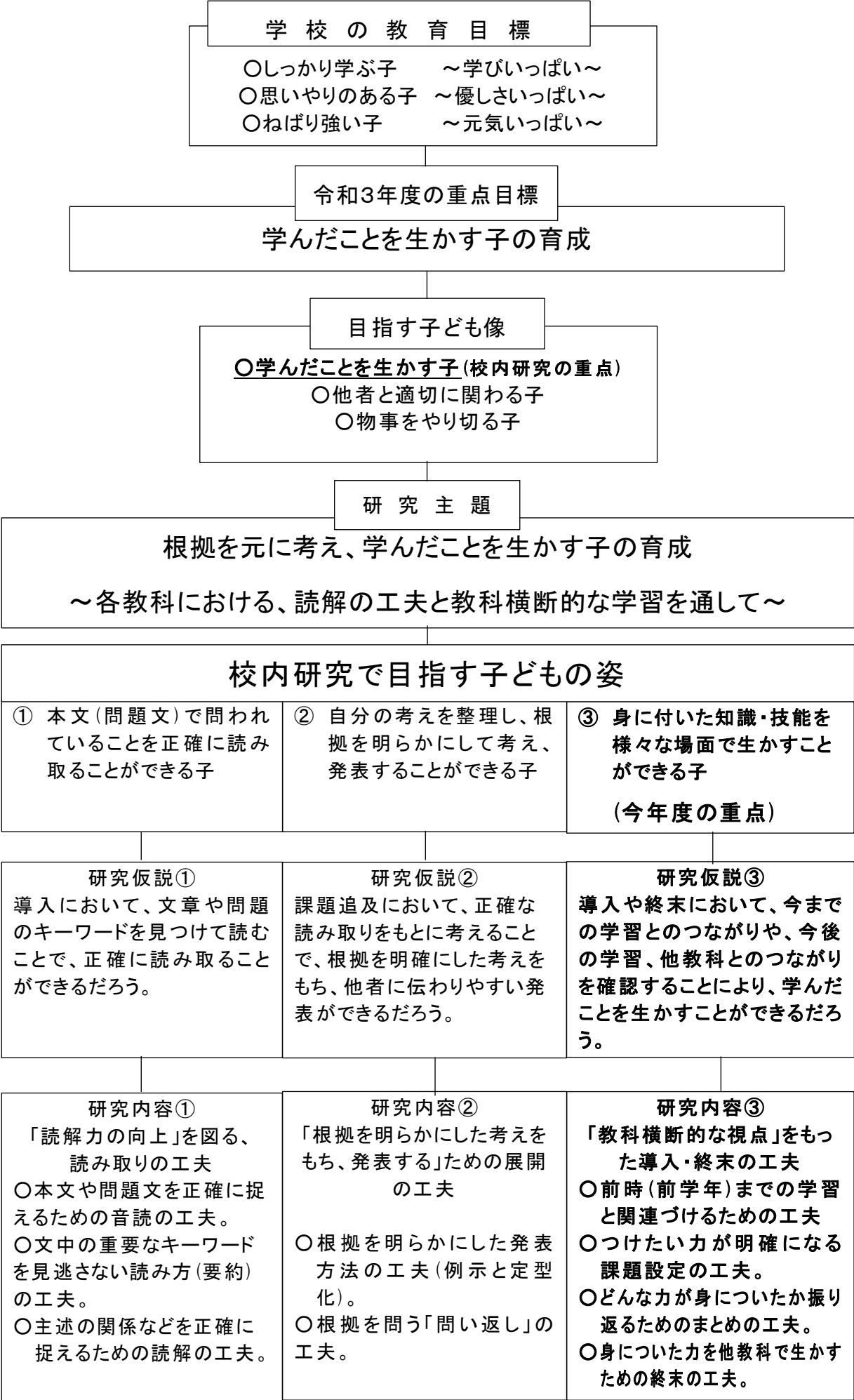
- ・総合的な学習の時間では、基本的に児童の興味に合わせて学習を展開していく。
- ・学級(児童)の実態に合わせて、体験→興味→課題発見→調査→まとめ→報告→新たな疑問の流れで授業を展開する。
- ・その年度に行った指導に関して構成や内容、外部との連携などを記録し、指導計画内に蓄積していく。

国語・社会

- ・各単元の1時間目で、単元の最終的な目標を提示し、全体の見通しをもたせる。
- ・各単元の1時間目に、単元全体の時間数や、内容を大まかに伝え、見通しをもたせる。

道徳

- ・複式で同一の内容項目の場合、導入とまとめを2学年同時に行い、考えを広げる。
- ・板書を写真化し、蓄積、考えを広げる手立て(授業展開の参考)として活用する。
- ・道徳学習カードを6年間蓄積し、自分の考えの変遷を視覚化する。また、先輩たちがどのように考えたのか紹介することで、考えを広げる手段として活用する。



第3・4学年 道徳科学習指導案

日時：令和4年9月22日（木）1校時

児童：3年 男子 1名

4年 男子 3名 女子1名

計5名

指導者：笹子 未来

1 主題名

第3学年	第4学年
正直に伝えるよさ【A-(2)正直、誠実】	明るくい心で【A-(2)正直、誠実】

2 資料名

第3学年	第4学年
『一本のアイス』 東京書籍「新しい道徳3」	『ひびが入った水そう』 東京書籍「新しい道徳4」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(授業者の価値観)

第3・4学年(共通)
本主題は、内容項目「A 主として自分自身に関すること」の「(2) 過ちは素直に改め、正直に明るくい心で生活すること」を扱うものである。児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心がけようとする姿勢を保つことが大切である。 過ちや失敗は誰にでも起こり得ることであり、それを嘘でごまかす行為は一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。そればかりか、他者の信頼を失い、自分自身も後悔や自責の念に苛まれることになる。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、のびのびと過ごそうとする心の明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが重要である。

(2) 児童の実態(児童観)

第3学年	第4学年
【各教科】 様々な場面で、相手の立場に立って物事を考える時間を設定し、自分がその立場だったらどうするか、どうして欲しいか考えるとともに、その理由を明確にし、伝え合う活動を行ってきた。	
【特別活動】 縦割清掃活動では、自分の役割を明確にし、それをしっかりと果たせるように取り組んでいる。自分のすべきことがわからなくなってしまった時には、同じ班の上級生に事情を正直に話し、教えてもらうように指導を行った。また、運動会の取組でも、自分のすべきことを明確にし、上級生に頼らずに行動できるようにするとともに、わからない時には素直に聞けるよう	【特別活動】 縦割清掃活動では、班のリーダーとして、その役割を果たせるように取り組んでいる。リーダーとして、どのように指示すれば良いかわからなくなってしまった時には、事情を正直に話し、班員と相談したり、先生に聞いたりするように指導を行った。また、運動会の取組でも、チームの(副)リーダーとして、メンバーと相談しながら自分たちで練習を進められるよう

に指導を行った。 このような取組の結果、どうして良いかわからなくなってしまった時には、正直にそれを伝えることができるようになった。しかし、自分の失敗や過ちについてはなかなか認めることができず、ごまかしたり、言い訳をしたりする場面も見られる。 そこでこの授業では、なぜ、自分の過ちを認め、正直でいることが大切なのかを考えるとともに、自分自身が正直でいるために心がけたいことはなにかを考えさせたい。	に指導を行った。 このような取組の結果、不安がある時や、うまくいかなかった時にはそれを正直に認め、改善しようと助言を求めたり、相談したりすることができるようになった。しかし、その場ではすぐに過ちを認めることができず、ごまかしたり、怒ったりしてしまう場面が見られる。 そこでこの授業では、なぜ、自分の過ちを認め、正直でいることが大切なのかを考えるとともに、自分自身が正直でいるために心がけたいことはなにかを考えさせたい。
--	--

(3) 教材について(教材観)

第3学年	第4学年
本資料は、「わたし」が弟の分のアイスまで食べてしまったのに、「食べてない。」と嘘をつき、ごまかそうとする。しかし、心が晴れずモヤモヤした状態に耐えられなくなり、本当のことを親に話す、という内容である。本時は、過ちは誰にでもあることを容認しつつ、そのことを正直に認めることの大切さに気づくとともに、正直であるために自分が心がけたいことはなにかを考えさせたい。そのために「「わたし」が泣きながら少しほっとした時、心の中でどう思っていたらう。」という中心発問をする。この中心発問により、嘘をつくことが心に暗く影を落としてしまうことに気づき、正直でいることは、明るくのびのびと過ごすために重要だと理解することに繋げたい。	本資料は、主人公のけい太が水槽の掃除をしているときに、誤ってヒビを入れてしまう。そのまま言い出せずに暗い気持ちのまま帰宅するが、次の日決心して先生に打ち明ける、という内容である。本時は、過ちは誰にでもあることを容認しつつ、そのことを正直に認め、打ち明けることの大切さに気づくとともに、正直であるために自分が心がけたいことはなにかを考えさせたい。そのために「次の日、登校して水槽のところへ行ったとき、心の中でどんなことを思っていたらう。」という中心発問をする。この中心発問により、嘘をつくことが心に暗く影を落としてしまうことに気づき、正直でいることは、明るくのびのびと過ごすために重要だと理解することに繋げたい。

4 ねらい

第3学年	第4学年
過ちを素直に認め、反省し、明るく過ごすために正直でいようとする心を育てる。	

5 授業のポイント

第3学年	第4学年
○内容項目を深く意識させるための工夫 ・導入段階で先に本時のキーワードを示すことにより、今日の授業を通して考えなければならないことを明確にする。 ○当事者意識をもって考えさせるための工夫 ・資料の内容を自分ごととして捉えるために、資料は黙読と大まかな内容の確認のみにし、自分ならどうするかを考えさせる。 ○考えを深め、自己の生活と結びつけるための工夫 ・授業の最後に道徳カードを活用し、授業で考えたことをまとめ、振り返る時間を確保することで、今日の授業で考えたことと今後の生活を結びつけて考えられるようにする。 ・導入段階で、本時の最後に考えることを先に提示することで、ゴールに向かって見通しをもって学習に臨むことができるようにする。 ○少人数学級において、考えを広げるための工夫 ・内容項目を揃えることにより、導入とまとめを合同で行い、多様な考えに触れ、自分の考えを広げられるようにする。 ・昨年度までの当該学年の児童の感想を紹介したり、他学年の児童にも考えを聞いたりすることで、多様な考えに触れ、自分の考えを広げられるようにする。	

6 本時案

時間	学習活動 (◎中心発問、○発問、・児童の動きや反応、☆教師の働きかけ)	指導上の留意点 (■評価、◆内容項目に迫るための手立て、※留意点)	直接 or 間接指導	指導上の留意点 (■評価、◆内容項目に迫るための手立て、※留意点)	学習活動 (◎中心発問、○発問、・児童の動きや反応、☆教師の働きかけ)	時間
導入	☆キーワードの発表「正直」 ○「正直」とはどのようなことでしょうか。 発表 ○自分はどのくらい正直だと思いますか。スケールに名前マグネットを貼る。 理由の発表 ○最後に考えること(自分が正直であるために心がけたいこと)を先に提示する。 ☆「正直」について考えることを意識づけ、各学年の学習に入る。					導入
展開前半	☆資料の紹介 ☆内容の確認 ○お母さんに「アイスを食べない？」と聞かれた時、どう思っただろう。 ・怒られる。・ごまかしちゃえ。 ・バレたらどうしよう。 ○次の日、自分の部屋に戻ってから、どんなこ	◆大まかな内容のみ確認し、自分だったらどうかを考えるように指示する。		◆ワークシート裏面の質問について考える。メモが必要な場合のみ記入する。ワークシートは事前に配付し、間接指導時に利用	・資料の黙読。 ・ワークシートに記入	展開前半

	とを考えていただろう。 ・どうして正直に言えなかったんだろう。 ・怒られないかな。・どうしよう。				できるようにする。 ◆昨年度までの児童の考えを紹介する。	☆内容の確認 ○ひびを見つけたとき、どう思っただろう。 ・やっちゃった！・どうしよう。・正直に言おうかな。 ○お母さんに「どうしたの？」と言われた時、どんなことを考えていただろう。 ・言えばよかった。・モヤモヤする。・カシオペアは大丈夫かな。 ◎次の日、登校して水槽のところへ行ったとき、心の中でどんなことを思っただろう。 ・水が漏れてなくてよかった。 ・やっぱり正直に言おう。	
展開後半	◎「わたし」が泣きながら少しほっとした時、心の中でどう思っただろう。 ・正直に言えてよかった。 ・気持ちが明るくなった。・嘘はつかないようになろう。 ・４年生にも意見を聞く。 ○なぜ、正直でいることは大切なのだろう。 ・モヤモヤしたくないから。 ・不安になるから。 ○自分が正直でいるために心がけたいことはどんなことですか。 ・ワークシートに記入。 ・間違ったことをしたらすぐに謝る。 ・嘘をつかない。	◆ワークシートに記入する。 ◆昨年度までの児童の考えを紹介したり、４年生にも聞く。 ※正直でいることが大切だと認識しているが、その理由を明確にする。			※正直でいることが大切だと認識しているが、その理由を明確にする。	○なぜ、正直でいることは大切なのだろう。 ・モヤモヤしたくないから。 ・不安になるから。 ○自分が正直でいるために心がけたいことはどんなことですか。 ・ワークシートに記入。 ・間違ったことをしたらすぐに謝る。 ・嘘をつかない。	展開後半
まとめ	・自分の考えを発表、交流する(まとめ黑板)。 ・道徳カードに記入 ■なぜ正直でいることが大切か理解できた。						まとめ

7-1 板書計画(メイン黒板)

3年生

2本アイス食べていない?

キーワード「正直」

正直ってなに?

ひびを見つけたとき...

4年生

自分の正直度

0 20 40 60 80 100

理由

なきながら少しホッとした

次の日、水そうの前で...

7-2 板書計画(サブ(まとめ)黒板)

自分が正直でいるために
心がけたいこと

8-1 ワークシート裏面(3年生)

① お母さんに「アイス一本食べてない？」と聞かれたとき、どう思っただろう。

② つぎの日、自分のへやにもどつてから、どんなことをかんがえていただろう。

③ 「わたし」がなきながら少しほっとした時、心の中でどう思っていただろう。

④ なぜ、正直でいることは大切なの？

⑤ 正直でいるために心がけたいことは？

○あらすじ

あついある日、お母さんに聞いて、わたしはアイスを一食べました。すぐに食べおわりましたが、どうしてももう一本食べたくなりました。そして、れいぞうこに入っていた一才の弟のアイスもがまんできずに食べてしまいました。

そのあと、とつぜんお母さんに「アイスを一本だべていない？」と聞かれてドキッと思いますが、わたしは「一本しか食べてないよ」と答えてしまいます。その夜は、なかなかねむれませんでした。

つぎの日、学校へ行ってもずっとモヤモヤしていました。家に帰ってお母さんに「アイス、本当に一本しか食べていないの？」と聞かれましたが、なにも言わずに自分のへやに行きました。

その夜、お父さんとお母さんに本当のことを話して「ごめんさい。」とあやまりました。お父さんは、「弟のアイスを食べたのもわるいけど、うそをついてごまかしたのはもっといけないよ。」と言いました。わたしは、なきながら、少しほっとしました。

8-2 ワークシート裏面(4年生)

⑥ ひびを見つけた時、どう思っただろう。

⑦ お母さんに「どうしたの？」と言われた時、どんなことを考えていただろう。

⑧ 次の日、登校して、水そうのところへ行つた時、心の中でどんなことを思っていただろう。

⑨ なぜ、正直でいることは大切なの？

⑩ 正直でいるために心がけたいことは？

○あらすじ

4年生の教室でカシオペアという名前のカメを飼っている。ぼくは生き物係で水そうのそうじと、エサやりを友だちのかずきといっしょにやっている。

ある日、ぼくが水そうのそうじをしていたら、水そうをじゃぐちにつけてしまった。ぶつけたところを見てみると、ひびが入っていた。でも、ぼくは、水は少ししか入っていないし、だいじょうぶだろうと思つた。

でも、そのあとは水そうのことが気になってじゅぎょうに集中できなかった。「ひびはうしろに向けたし、気づかないだろう。」とか、「もし、水がもれたらカシオペアの水がなくなってしまう。」など、いろいろなことをモヤモヤと考えた。

家に帰っても暗い気持ちでいたぼくは、お母さんに「どうしたの？」と聞かれたが、何も言えなかった。

次の日、登校してすぐに水そうを見に行つた。水はもれておらず、カシオペアも元気だった。

ぼくはそのまま先生のところへ行つて、正直に話した。先生は、「きちんと話してくれてうれしいわ。」と言ってくれた。それを聞いて、ぼくの気持ちはすっと明るくなった。

道徳学習カード

教材名「

(/)」名前

① 自分の考えをもって、発表することができましたか。	思わない	あまり思わない	そう思う	とても思う
② 自分の考えを深められましたか。	思わない	あまり思わない	そう思う	とても思う
③ 自分の考えと違う、新しい考えに気づけましたか。	思わない	あまり思わない	そう思う	とても思う
④ 今日学んだことを、自分の生活に生かすことができそうですか	思わない	あまり思わない	そう思う	とても思う
MEMO(なんでも自由に使ってください)	今日の授業で考えたことや、これからの生活の中で今日考えたことをどのように生かすか書いてください。			

浅茅野小学校 研究協議の記録（道徳）

助言者 宗谷教育局指導主事
武田 くるみ 様

授業者 笹子 未来

司 会 近藤 雅美（浅茅野小）

記 録 門田 善弥（浅茅野小）

研究協議の進め方の説明	研究協議の進め方について説明します。 まず、本日の研究協議の柱について説明しますので、参観された先生方から柱に関わってのご意見、ご感想、改善点などをお話しいただき、交流したいと思います。 その後授業者の笹子先生から、研究協議で出た意見をもとに、ふりかえりを話してもらいます。 最後に、武田指導主事より、ご助言をいただきたいと思います。このように進めていきますのでよろしくお願いします。
柱の説明	1つ目は、 「複式学級（少人数）の道徳及び、考え、議論する道徳にするための手立てはどうだったか。」です。 指導案の中に、本時の授業のポイントとして、内容項目を深く意識させ考えさせるために、本時のキーワードを先に示すことや、2学年の内容項目をそろえ、多様な考えに触れることができるようにしたことなど、いくつかの手立て挙げられています。 2つ目は、 「読解の工夫や生活との関連付けはどうだったか。」です。こちらについては、資料は黙読や大まかな内容の確認を行ったことや自分ごととして考え、今後の生活と結びつけるための「道徳学習カード」の使用などが挙げられています。
研究協議	どちらからでもかまいませんので、ご意見、ご感想、改善点などをお話しいただきたいと思います。意見がある方は、いらっしゃいませんか。
	○参加者 ①自分のこととして捉えるのがすごい大事だと思った。辞書で正直という言葉の意味を調べていた。正直について何%か問いかけ、子供たちが自分の体験を正直に話をしていて。1人1人に問いかけ、考えさせられることが少人数のよさ 3年生1人だけで大変そうと考えがとまった時、去年学習した4年生の考えに触れることで考えがまとまったのが複式の良いところだと思った。 ②3年が4年生の意見を聞いてどのように意見が変わったかを4年生の学習のタイミングでワークシート書く活動があってもよかった。 ○参加者 昔は同内容の授業だった。学年ごとの異なる授業。 内容項目を揃えて指導計画を構成しているところがあるほどと思った。導入、まとめが一緒ということが複式の授業構成の工夫の一つだなと思った。 3年生の1人学級の対話的な学びについて、4年生（異なる学年）の考えに触れるということが複式のメリットに感じられた。 席の配置について、4年生の中に3年がいるのはどんな狙い？ ①全部先生との対話によって進んでいった。子供同士の対話で進むことがなかった。自分だったらどうするか、主発問に対し、教材と向き合って考える時間があるとよかった。 ○近藤 座席の配置について、普段側面黒板の方を向いて授業をしている。

	○笹子 道徳では、座席の配置について、集中力、学力の問題、目の前でサポートできるようにであったり、周りの子からのサポートを受けられるように座席を配置している。 書く活動について、書くのに物すごい時間がかかる学年、そのため、発問を減らしたり工夫していく中で、書く時間も少なくなっていった。 ○参加者 道徳を異なる内容でやること 45 分間ずっと対話で進んで行ったことがすごい。担任でない先生の授業で子供たちが思ったことを発言して考えていけたことがすごい。普段授業作りについてどんなことを意識しているのだろうか。 教材を読み取って理解することが大切だと思っていた。今日の授業で出てきたワークシートのあらすじがいいなと思いました。 ○笹子 道徳の授業って何を鍛える？という問いかけをした。道徳は心を鍛えるということを伝えた。道徳の授業を進める意図やこんなことを考えてほしいということを最初に伝えた。言いやすい環境づくり、先生の失敗談を話すなど。 お話全部をみっちりやってしまうと国語になってしまう。教科書は考えるための材料として、自分ごととして捉えて考える時間を大切にしている。 ○参加者 道徳学習カードの振り返りで、今後どのような活かすかという項目がすごく良い。実践につながっていく取り組みになっている。 指導案では、自分の考えを発表すると書いてあったが、今回はなかった。 ○笹子 発表させるとサブ黒板の意見と同じになってしまう。そのため、発表は行わなかった。 ○参加者 教材文について、今日の授業であらすじで進めていった理由は時間的な理由？ ○笹子 自分ごととして考える時間を大切にできなかったから ○参加者 サブ黒板では、短くまとまっていたが道徳カードでは、今後の生活への活かしについて書いてあった。ぜひ交流したら良いと思った。
	最後に、柱以外の点でもかまいませんので、ご意見やご感想、今後の改善点などがあれば教えていただきたいと思います。いかがでしょうか。
	○参加者 大きな絵はがきの問いかけについて、前時の内容を使って深い学びにつながっていった。 普通に進めば正直に言わなきゃで終わるところが、深い考えになっていた ○参加者 担任ではないのに子供たちとの信頼関係がきちんと築かれている。担任と教科担任制がうまくマッチしている。 子供たちとの話し合いをさせてみたらもっとたくさんの考えが出たかも。その中で自分の考えが変様することもあったかもしれないと思った。
	つぎに、授業者より、今日の授業と研究協議を通しての振り返りを行います。笹子先生、お願いします。

授業者より	○笹子 内容項目を揃える指導計画を作ることが大変 教材によっては内容によっては揃えられないので、他教科と合わせてやることも必要となってくる。そのため、必ずしも複式で一緒にやるわけではない。 先生方からたくさん意見をいただいたように、今後、子供たち同士で話し合う時間を作っていきたい。
	最後に、武田指導主事より、ご助言をいただきたいと思います。よろしくお願いします。
助言	○道徳の授業作りについて、指導の明確な意図を持って指導案を考えることが大切。その上で子供の実態に合わせて、教材をどのように活用するか考える。 ○教材の心情理解、読解に時間をかけ過ぎていることが多い、子供たちが自分ごととして結び付けられていない授業が多い。 ○自分の価値項目の押し付けになってしまうことが多い。 ○読み物教材では、自分との関わりで考えを深める授業がよい。 ○他者と対話したりする学習を通して、物事を多面的、多角的に捉える授業がよい。 ○発問の工夫について、考える必然性や切実感のある発問や自由な思考を促す発問、物事を多面的、多角的に捉える発問。 ○今日の授業では正直の%や揺さぶりをかける問いかけで、子供たちが自分と関連づけて考えることができていた。 ○道徳的価値を自分の関わりの中で深めることが大切なので、最後にこれからどうしていきたいかワークシートに書いた物をみんなで交流できるともっとよかった。
おわりの言葉	これで、研究協議を終了します。たくさんのご意見等、ご協力ありがとうございました。 以上です。本日はご参加ありがとうございました。お帰りの際は、お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。